

Narashino International Association



Narashino International Association

NIA SQUARE ニュースクエア

Quarterly News

第58号

2002年6月1日
習志野市国際交流協会

Special インド
What's New オレは洋行するのだ
Report 投稿
Report N.I.A.事業報告

Information 2002年度事業計画
N.I.A Youth Go! Go! ASAKUSA
Who's who こんにちわ・コンニチワ
Challenge ザ・英文クロスワード

さまざまなかおくに インド…様々な顔をもった国

アジト カウル (ALT, NIA会員)

世界で七番目に大きく、アジアでは二番目の大きさがあるインドは、南北に3,214キロメートル、東西に2,933キロメートルあります。(インドの国有面積は328万平方キロメートルあり、日本の約九倍あります。)周囲は、西にはパキスタンとアフガニスタン、東にはバングラデシュとミャンマー、北にはネパール、中国、チベット、ブータンとたくさんの国々と接しています。そしてインドの南西地方はアラビア海、南東地方はベンガル湾、東側はインド洋に囲まれた半島です。また、アラビア海にはラガジブ諸島、ベンガル湾にはアンダマン諸島やニコバル諸島を領土として有しています。

インドは、世界最古の文明の一つを持つ国で、また古い歴史を持った国でもあります。世界ではアイルランドに次いで二番目に条文の多い憲法を制定した民主主義国家で、ここまでには長い道のりでした。

インドは世界有数の農業国です。国土面積の56%が耕作に適しています。主な農産物は、コメ、小麦、脂肪種子(ゴマ、アブラナなど)、綿、ジュート(黄麻)、南京袋の原料)、茶、さとうきび、ジャガイモです。経済的にはまだまだ発展途上国ですが、主な輸出品は、繊維製品、宝石、宝飾品、工業製品、化学製品、皮製品などで

す。アメリカ、イギリス、ドイツ、香港、日本、アラブ首長国連邦、ベルギー、サウジアラビヤを主な貿易相手国としています。

インドの気候

インドは一般的に暑い国と思われがちですが、それはちょっと違います。地理的にみて、国内の地域によって、

気候条件もさまざまです。場所によってまちまちな気候は、地形的な違いから由来しています。インドは典型的な季節風が吹く気候であると一般的に言われています。北部・中央部地方は

11月から3月が冬になります。なかでも12月と1月が最も寒く、最低気温が2度ほどまでに下がります。一方、東部では極端に温度

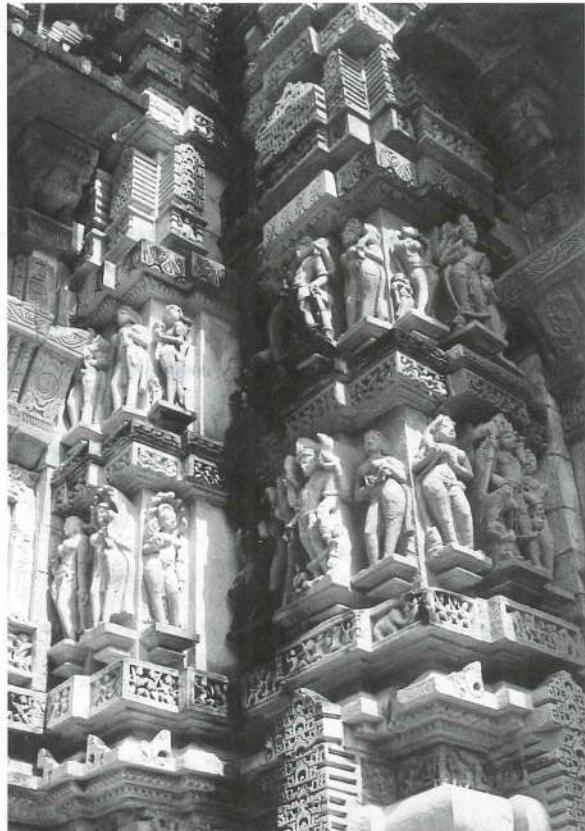
しつども湿度も高く、季節風は11月から2月に集中します。また、南部は北部ほど極端な気候の変動はなく、北部ほど寒くはありません。ですから、この時期がインドを旅行するには最適なシーズンです。夏はインドの殆どの場所が暑いです。北部と中央部では5月から6月には摂氏42度を越える日々が続きます。インドの雨季は様々です。北東部、西部、ヒマラヤ地方では、毎年2,000ミリメートルを超えるほど多量の雨が降ります。インド半島の東部から北部の平野にかけ



インド門(ニューデリーの中心にあるランドマーク)

では1,000—2,000ミリメートルの降雨量ですが、北西部の平野では雨がとても少なく100—500ミリメートルの降雨量しかありません。インド西部のパキスタンに近いグジラット地方のカツチとカシミール地方のラダックでは、ほとんど雨が降りません。そしてアッサム地方のチラプンジは、世界で最も降水量が多い場所と言われています。

インドの宗教



カジュラ寺院（世界遺産）

インドではヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教、スイク教、仏教、ジャイナ教、ゾロアスター教、ユダヤ教と異なる宗教があります。

ヒンドゥー教は、インドの総人口（約9.7億人で日本の約8倍）の約8割を占めています。次にイスラム教が約1割を占めています。したがってインドネシア、バングラデシュに続き世界で三番目にイスラム教徒が多くいることになります。

キリスト教はインドの総人口の約3%弱を占めます。キリスト教は、ヨーロッパに伝わるより早くインドに伝えられましたが、ポルトガル、ドイツ、フランスやイギリスの占領時代に普及したにとどまりました。

スイク教徒は、インドの総人口の2%に満たなく、パンジャブ州に集中しています。他の宗教を信じている人々は住んでいる地域の言葉で話していますが、スイク教の人々はパンジャブ語だけを使っています。スイク教は500年前に、ヒンドゥー教の中からカースト制度（生まれながらの身分制度）を根絶しようとして生まれた宗

教です。その教えはヒンドゥー教とイスラム教の良いところを取りいれたものです。

仏教はインドで誕生したにもかかわらず、何世紀も母國を離れていました。しかしごく最近、この仏教がインドに戻ってきました。インドでの新しい仏教は主としてヒンドゥー教を改宗したもので、ジャイナ教（紀元前5世紀に創設された）に似ています。また、スイク教のように、ヒンドゥー教のカースト制度をなくそうとする力によって生まれてきました。基本となる教えは、"解脱"で、争いのない道へと導く魂の救済なのです。仏教徒の数は、インドの総人口の0.7%を占めるようになりました。

ゾロアスター教の起源は七世紀頃のペルシャにさかのぼります。ゾロアスター教の信者たちはパールスイー（インドのファ尔斯という地名に亡命したので）とよばれますですが、その理由はかつてペルシャで迫害を受け、インドに逃ってきた人々だからです。ゾロアスター教は、神への媒介を"火"として、拝火信仰する唯一神の宗教です。

インドは、インド憲法により世俗国家（政治と宗教は別である）と定義されています。各宗教の重要な行事は、敬意と平等をもって国祝祭日として決められています。

インドの言葉

言語学的にみると、845種の方言と225の異なる言語を挙げることができます。インド憲法では次の語を主要言語として制定しています。即ち、アッサム語、ベンガル語、グジャラーティ語、カナラ語、カシミール語、コンカニ語、サンスクリット語、シンド語、タミル語、マラヤーラム語、マラーティー語、パンジャビ語、オリヤー語、テルグ語、ウルドゥー語。そしてヒンディー語と英語は公用語として使われています。

すべての言語はそれぞれ別個の文字を用い、英語とともにそれぞれの地方で話されています。



インドの生活（食料品店）

インドの料理

インドではその文化や人種や地形や気候の違いにともなった多種多様の食べ物に出会えます。各地方によりスパイスの組み合わせが微妙にちがいます。それぞれ独特な風味に仕上げるといわれています。地方により異なるたスパイスが使われ、それが入手できるかどうかは気候によって大きく左右されます。言うまでもなく、調理方法は昔から伝えられた作り方です。

スパイス以外の主な材料は、ヨーグルトやカッテージチーズなどです。それぞれの地方で入手できるか、また好まれているかどうかで決まりますが、豆はほとんどの地方で使われています。新鮮な野菜は日々の食事の中で、とても大切なものです。缶詰めなどは、用途が限られているので、あまり使いません。大切なのは新鮮な食材と、調理したてのものがこのまるるということです。海岸沿いの地域では、魚やココナッツを加えたいいろいろなライスがつくられます。伝統的インド料理は季節毎に食材が変わりますが、どれも健に良い食べ物と言われています。しかし、現在の流行のスタイルは、ファーストフードと西洋風の料理です。

デリーやポンベイの都市では、これらの料理の他に地方の郷土料理も食べられます。

インドの教育

一般的な学校教育制度：インドでは、10+2システムと呼ばれる学校教育制度が採用されています。まず、初等教育（Primary education）は五年制、クラスⅠからⅤまで、次に中間（Middle Stage）の三年制、クラスⅥからⅧまで、中等教育（Secondary education）として二年、クラスⅨからⅩまで、そして最終段階は二年間の上級教育（Senior Secondary Stage）として、クラスⅪからⅬと成っています。公立の試験はそれぞれの州の中等教育委員会や上級教育委員会によって十年目の終わりか、十二年目の終わりに施行されます。

上級教育を受ける学生達は、専門科目として科学、経済、芸術などから選ぶことが出来ます。これは勿論、学生の実力によりますが……。

首都や主要な都市には、公立と私立の学校があります。ところが、ちいさな町や村には政府の財政援助をうけた学校しかありません。

私立校では、すべての授業が英語でおこなわれています。一方、公立校では、ヒンディー語かその地方特有の言語で授業が行われています。試験はとても厳しく、最低40%の正解率が取れなければ上に進級できないシステムになっています。



制服姿の子供達

終わりに。

インドは“混とん一混ざり合ってはっきりしない様子一とした国”とよく言われています。そう言われる大きな理由として、一つの国に不可解なまでの異なった民族、文化、宗教、そして言語が集まっているからです。外国人の目から見たら、理解しがたい伝統や習慣が多々あるからでしょう。インドという国やインドの人達をより深く理解するには、一つの古代文化をきちんと理解することが必要です。多くの疑問を解く鍵はその国の歴史的な背景をよく理解することだとおもいます。

以上、色々なことを記しましたが、インドという国は、人々の生活の中に時代から時代へと伝承されてきた信仰と習慣を大事にする国であることが言えると思います。人々の生活は、宗教の影響を大きく受けています。このようにインドは、先祖からの古い文化遺産を大切にしながら、進歩をとげようとしている国なのです。

今年は日本とインドの国交50周年記念にあたります。マスコミを通してインドの情報を見聞きする機会が増えると思います。是非多くの人々にインドを理解していただければ、こんなにうれしいことはありません。

(訳：萱場 あさみ 編集部)



ガンジーなど歴史上の人物の像（ニューデリー）

What's New／「オレは洋行するのだ」

原田 誠之 (N.I.A会員)

原田誠之さんは、生涯世界100ヶ国訪問を目指している。テーマは、言語のルーツを求める事!! 楽しい旅の一部を紹介して頂きました。



ピラミッドの前で江戸芸術の粹、かっぽれ一世一代の演技

欧洲は近く、休暇の度、二人で個人旅行の体験ができた。もし、あの時、辞職していたら、今頃は田舎にくすぶり、外遊の望みなど潰え去っていたに違いない。



アルゼンチン・ウプサラ氷河

私は、1929年、山口県に生まれ、1949年、青雲の志に燃え東京へ出てきた。しかし、田夫が抱いた海外渡航の切実な願いは淡雪同然無残に消え失せる。会社では意に反し、国内業務に30年、一時期、教職に就いて帰郷も考えた。長女出産を機に、離京をあきらめ、傷心の痛手を語学書で癒し、趣味として江戸芸術に傾倒していく。その粹さが分かる時分には、定年退職後、家内と世界漫遊の夢がふくらんできたのである。

そんなある日、突然、担当重役に呼ばれ、1984～1986年の足掛け3年間、エジプト・カイロに夫婦同伴で駐在する話がくる。まさに、退職間際におとずれた晴天の霹靂、驚天動地の出来事であった。おとずれた晴天の霹靂、驚天動地の出来事であった。



カイロ発イタリア旅行
ピサの斜塔

人生は実力二分に運八分

私の在勤中、海外赴任が実現したのは「運」がよかったの一語に尽きる。出たら目=偶然(運)という公式に当てはまる。出たサイコロの目が、たまたま、私の語学趣味にチラ当たっただけの話。語学の分野は言語学、会話の訓練・経験はゼロに等しい。

それでも面白いことに、語学の噂は尾にヒレがつく。いずれにせよ、なんでも倦まずたゆまずやっておけば、チャンスは必ず到来するということだ。あとは雪達磨式、在職中に出張で、スーダン(カイロ発)、フィリピン2度、中国6度、香港、台湾、英独、南西アフリカ4カ国へ。退職(1989.)後、メキシコを皮切りに、欧洲、オーストラリア～ニュージーランド、南米2回、フランス一周と、夫婦で待ち焦がれた自由旅行の実績を積み重ね、その合間にねらってツアーにも参加したのである。

月に群雲、花に風

旅にうつつをぬかし、健康診断を2～3年サボッテいた。家内の勧めもあって、1996年10月、習志野市定期健診で胃の透視をうける。

市保健課から要再診の通知がきた。谷津保健病院で胃カメラ検査、結果は自覚症状がないのに、胃ガンと診断され、お先真っ暗、激震が走る。その翌年、正月早々、胃の全摘手術が施行された。

考えてみると、この早期発見のおかげで、今、私はこの世に生存している。逆に、ガンにならなかったら、百カ国達成など思いもしなかっただろう。世は、まさに、ういてんべん、ちょくじ、はいせつ、つうせつ有為転変だ。手術後は食事と排泄が痛切なる問題になる。それでも、家内と二人三脚で



南アフリカ・ボツワナ共和国
チヨベ自然国立公園、群象の水遊び



チュニジア・ローマの水道橋跡

めざす ジョラ ふ ばれい しんりょく きせつ
百カ国を目指し助走に踏み出す。馬齢68歳、新緑の季節だった。

TRAVEL=TRouble(>トラヴァーユTRAVAILLE=フランス語の仕事)



インド・タージマハルにて

かんすい 完遂もまた同じ、旅の原点に戻ってみると、苦労が多ければ、多いだけ、その喜びは大きいのだ。

旅は道ずれ世は情け、案するより生む が易し

自由旅行を希望する人の大半が、まず「言葉」を心配する。

現に、旅の指南書はゴマンとある。そのなかで、有名な『地球を歩く』にはその国の大半の簡単な日常会話が必ず掲載



アメリカ合衆国・モニュメント・ヴァレー
(辺鄙な有名観光地は宿が少なく自由旅行は難しい)

されている。それで十分だ。そして、観光地の関係者は大概英語を話すから中学校程度の知識があれば問題ない。あとは片言と手真似でなんとかなる。

次に、航空運賃は、私たちの場合、長女が外国の航空会社に奉職し、両親優遇制度があるので参考にはならない。ところで、今は安い航空券が手にはいる。うまくすれば、私たちより有利な条件のものが沢山ある。これは経験者に相談するのが一番の早道。

旅行費用は、その国の経済事情と旅の仕方によって違ってくる。

たとえば、私たちは、空港から市街までタクシーは滅多に使わない。宿はシャワー共同の安宿を利用する。現地観光ツアーにはいる等々。

参考に直近の例をあげれば、昨年6月～7月、約20日間、私単独で欧洲（スイス、リヒテンシュタイン、オーストリア、イタリア、サンマリノ、スペイン、アンドラ、ポルトガル）を廻る。費用は航空運賃を除いて約16万円だった。ただし、私は胃がないので、一度に沢山食べられない。健常者とは食費に格段の差がある。

さて、百カ国は、今回の旅で83カ国になる。正念場はこれからだ！

昔、旅は難儀な仕事だった。道なき道を、ラクダ、馬、ロバに荷を積んで遠隔の地へ商売（交易）にでかけた。途中、関所で関税や通行税をとられ、山賊の横行に悩まされる。まさに、旅=恐怖（FEAR）、決して楽しいレジャーではなかった。FAREはFEARに通じ、旅をする意味をもっている。FAREWELLは旅の無事を祈る挨拶になった。

現在では、お金さえ出せば、ゴージャスな旅ができる。それができない私たち庶民は臨機応変、メリハリのある旅で満足するしかない。

山男は危険を冒してまで未踏の山に挑む。自由旅行の

アメリカ合衆国・モニュメント・ヴァレー
(辺鄙な有名観光地は宿が少なく自由旅行は難しい)



シャモニー～ニース間の車中にて
(仏・伊・英語の片言で一期一会の歓談)

G'day オーストラリア

ひなた ひろみ
日向 洋美 (N.I.A. 会員)

さくねん 昨年の9月に谷津干潟のボランティア仲間10名(男女各5名)と、オーストラリアのブリズベーンを訪問しました。谷津干潟とブリズベーンのブーンドル湿地は水鳥保護のため、提携を結んでいます。今回の旅もその中の市民交流の一環として計画したものです。私自身は、その他に2つの目的がありました。1年亡くなつた湿地管理委員会前会長のアン・ペーズリーさんに花を手向けたかったことと、喜寿(77歳)を迎えた父との旅行です。アンは、提携後第1次の谷津干潟訪問団のメンバーで、私達は大の仲良しでした。

しがかいほうもん 湿地、市議会訪問、ペーズリーさんへの献花、クルーズ、バードカービング、野生ウォンパッドとのアイコントラクトなど多くの思い出がありますが、老人ホームでの折り紙交流会と、ホームパーティの様子をお伝えしたいと思います。

折り紙交流会は、ブーンドル湿地に近いマーシー・ケアホームで開かれました。季節は春...谷津干潟よりはるかに広そうな敷地には数本のジャコランダ(桜のオーストラリア版)の大木に薄紫の花が満開で、他にも色とりどりの花が咲き、その先は海が広がっています。豊かな緑の中に、教会と平屋の美しい建物が点在しており、各一戸の中にリビングルーム、食堂と数室の個室があります。個室は、バス、トイレ付き10畳位の広さで、お気に入りの家具が置かれています。このホームのモットーは「学び続けること」です。



ケアホームの庭で

とうじつ にゅうきょしゃ 当日は入居者だけでなく、地元の中学生の有志も何名か参加してくれました。私は、この日に備えて数ヶ月まえより折り紙の練習を重ねてきました。折ったのは、「鴨のおやこ」「ぴょんぴょんカエル」、谷津干潟とブーンドルを飛ぶ渡り鳥の「だいしゃくしき」(これは本当

に4—5メートルは飛びます)、「パタパタ鶴」などです。すぐ覚えて次々と折ったのは勿論子供達でしたが、80代や90代のお年よりたちも、私達の折った鳥を飛ばし楽しそうでした。皆様も鳥の折り紙に興味をお持ちになられましたら、谷津干潟自然観察センターにお越し下さい。折り紙ボランティアがお待ちしております。



ケアホームで折紙交流

こんかい なんど あたた てづくり 今回は何度も現地のかたの暖かい手作りのおもてなしを受けました。湿地管理委員会代表のパティソンさん宅では、関係者の家族一同が集まり庭でパーべキューパーティを開いてくださいました。彼女のご主人が7年がかりで完成させた家は大きな暖炉や数十人が入れる居間を備えたもので、広大な敷地には山や池があります。庭のパパイヤは種を植えて2—3年で実がとれるそうです。その広い庭で肉を焼くのは『オージーハズバンド』たちです。ちなみに「オージーハズバンド」は、世界中で最も家事を手伝う夫として知られています。ステーキやサラダ、デザートがなくなる頃には、私達は、旧知の友のようになっていました。夜がふけるにつれ別れがたりなり、満点の星の下に、懐中電灯を手にして、皆で池にカエル探しに出かけました。ブリズベーンは多種のカエルの生息地で、市のシンボルも緑のカエルです。「カエル協会」副会長のパティソン氏の顔は、ジャンピングガエルを捕らえた時、得意げな少年のように輝きました。

多くのひとが私達の集まりに配偶者、子供、中には孫まで3代の家族で参加してくださいました。「皆さんのお時間を割いてごめんなさいね」と言う私に、「人生はこのような楽しみのためにあるのよ。そのために普段は一生懸命に働いているの。」と微笑んでくださいました。4日間の公式日程後、私と父は他のメンバーと離れサンシャインコーストに向かいました。習志野市立中学校で昨年まで3年ALTをしていたアマンダに招待されたのです。そこはリゾート地というだけにジャコランダ、桜



これからデザート・パティソン家テラス

や多くの見知らぬ花が咲き誇り、朝は裏庭に来たレインボーアイコの声で目が覚めました。全てが映画のシーンのような美しさの中で、朝昼晩調理をしてくれたのは、アマンダのお父様でした。アマンダ達3人の子供の小学校から高校までのお弁当は、銀行員だった父上が毎朝早く起きして作ったとの由... アマンダが日本で「理想の人は父」と言っていた訳がわかりました。まさにオージーハズバンドここにあり！という感じでした。

オーストラリアの自然と心にふれた今回の旅行は私にとって改めて人生の意味を考えさせられる意義深い物となりました。T a ! T a ! (オージーで「ありがとう」の意)



アマンダ親子と

韓國の風に揺られて

戸田 志香 (ボランティア通訳)

三月半ば、ソウルに一週間ほど滞在しました。今年は中国から吹いてくる黄砂が強烈で、全国の幼稚園、小学校が休校になったほどです。ある日の新聞の一面にはまつ茶色の砂風（なんてことばはありませんが）の中を歩く韓国人の写真が大きく載っていました。

でも春は来ていました。レンギョウ、韓国ではケナリといいますが、バス通りにも、大きな漢江の両側にも、町のいたるところで黄色い花が咲き始めました。日本のより花の色は濃く、鮮やかです。

私は八十年代に三年間、ソウルで留学生活を送りました。近づく春の気配を楽しむ日本とちがい、韓国はある朝、気がついたら春だったというくらい、突然やって来ます。それを告げるのがケナリの花です。ケナリに囲まれた春。私の好きな韓国の風景です。

「故郷の春」という童謡があります。

わたしの暮らしていた故郷は花の咲く里／桃やあんずやひめつづじ／いろとりどりの花の館の村／その中で遊んだ頃がなつかしいです

この歌は日本が朝鮮（当時）を統治していた時代に作曲されました。四分の四拍子のやさしいメロディーです。ことばがわからなくても、一度聞くと共感できる何かを感じられます。

誰の心にも“ふるさと”があります。そして“歌”があります。それを壊しても奪ってもいけないということを、私は韓国のかきよくまなみなしあいかれきしはんとうみんぞくなまえはかいの歌、歌曲から学びました。こうした歌曲の背景には、日本の支配下という歴史があります。日本は朝鮮半島の民族からことばを、名前を奪ってきました。それは人の心を破壊することにつながりました。

こうした時代に多く作られた歌曲。私はこれらの歌曲をどんな人がどんな思いで聞いたんだろう、といつも考えます。そう思うと、歌の後に当時の人たちの息遣いが果てしなく続いているのが感じられます。歌って生きているなと思います。

そうした思いを私は本にしました。「わたしは歌の旅人—ノレ ナグネ」です。ノレは歌、ナグネは旅人という意味です。

人は旅人です。いつかは土、故郷に帰ります。それはどんな故郷ですか？そこで聞いた歌はどんな歌ですか？花咲く春にそんなことを思ってみるのはいかがでしょうか？



習志野きらっと2002 『N. I. Aサンバチーム募集中』

7月28日（日）市民まつりで外国人とサンバを楽しみませんか!!

希望者は、N. I. A事務局まで

A Three-Minute Star

Maria Jessica Saijo

It was a fine day of February 27, 2002 and there were crowds of people, the listeners and speakers as well. The ambience was pleasant and casual. All of them were ready and excited to watch an event. It was a tea table conversation or a tea party speech program called "speech sawakai" in Nihongo. It was participated by 34 speakers from different countries namely: Romania, Thailand, China, America, Peru, Australia, Brazil, Malaysia, England and my very own country, Philippines. This program was hosted by Narashino International Association [NIA] and has been ongoing every year. It probably aims to encourage participants to share their experiences and challenge their knowledge of the Japanese language since they are current members of NIA, taking up Japanese lessons under the help and generosity of volunteer teachers who are members likewise. During the hour, there were smiles from people showing real delight. There were also serious facial expressions seen and chuckles and laughter heard especially when a speaker had delivered an interesting and funny topic, perhaps. In between, there was break time. Drinks and snacks were provided in packed boxes. Various themes were presented like popular Chinese & Japanese poems, about one's native dish, on individual differences, of course about one's country, hopes and aspirations, some unforgettable and embarrassing experiences and many others. It was a great and an enjoyable day to get to know several people's messages through their speeches.

This time, why don't we go over to the speaker's side or point of view. There are several questions you might be interested with. How did they come up with the topic? Can you imagine the preparation they had? What were the emotions felt? I was a speaker myself and my topic was about my embarrassing yet unforgettable experience here Japan (Hazukashii Omoide). It takes guts to tell such an awful situation though. But I wish to share the humor and the learning I gained from it. Foreigners like us, will be encountering different situations full of excitement and challenges each day of our lives. And in the process, we learn from it. Just like when we commit mistakes and learn from them.

In fact, we seem to study the basics of many things again. Since I'm not yet good in writing and reading Japanese characters and speaking as well, I sought the help of my husband for the translation. At first, I was so hesitant and really wanted to skip my part. But thanks for the persuasions of my kind teacher, Mrs. Kitazawa (sensei) and some dear friends, I had finally accepted the challenge. At that very moment, how I really wish my part would be over soon. I had probably blushed while on stage.

Other speakers did very well and of course there were those who seem to be only reading not getting the audience rapport. Perhaps, it wasn't their kind of specialty.

I tried to approach some speakers who had been kind enough to share their comments. And thanks to a few like Mrs. Nari Kurata from Thailand. She had joined the program for the third time. And according to her, she had gradually improved each year. And it was a great pleasure to present her speech this time without reading it. Of course, she did several rewriting to make the final draft in Japanese under a 3-minute time constraint. She finds this achievement very fulfilling. And calls on everyone to make efforts to face the challenges behind.

Another generous lady, was a fellow Filipino citizen, Ms. Eva Sano, who shared hers, as well. It was a chance for her to express the innermost feelings she felt, like the joys and tears. The experiences of what is like living away from homeland. What is like living here in Japan, with a totally different culture. The adjustments she had undertaken as language at first seems to be a barrier. It was a channel to meet people of different nationalities, exchange experiences with one another and eventually make new friends.

I wonder, how would one react, too, if we try to change the picture? Just like if we were to switch positions. This time you will be the gai-jin? Well, it's quite exciting to be a star in 3 minutes, I guess.

ボランティアは楽しむもの

山崎美知代（ボランティア部会長）

海外旅行の楽しみ方・目的は様々です。ボランティア研修会の講師としてお願いした大地浩子さんは、その様々な楽しみ方のひとつにボランティアという目的を持って、海外に行ってきた方です。

韓国といえば、今や、日帰り感覚で出かける海外ですが、韓国慶尚南道、普州市（チソジュ）を知っている方は、どのくらいいるでしょうか。ソウルからバスで4.5時間、釜山近くの古都です。大地さんは、この普州でHABITAT FOR HUMANITY INTERNATIONALのボランティアとして、昨年8月に一週間活動してきました。この活動は、世界中で住居に困っている人々のために住居を建設するボランティア活動です。毎年、対象となる国は違うのですが、今回大地さんは長年勉強をしてきた韓国語を使ってみようと出かけた訳です。

参加費に、韓国国内の滞在費は全て含まれていますが、ソウルまでは別途自己負担です。きまりは指定日に空港、又は指定のホテルに集まる事。そこから家造りのボランティアが始まります。大地さんは食事グループに入り、ボランティアの方々の食事、配膳、片付けを担当しました。驚いた事に、アメリカからのボランティアは女性といえど、住居建設グループに入って、大工さんも顔負けするほどの仕事振りでした。

参加者の中には、毎年違った国へ旅行がてらボランティアをしに参加する名物老アメリカ人もいたそうで、何か、四角四面の捉え方でないところがいいなあ、と思いました。

次に、ボランティア研修会に参加した方の感想

1. ユニークな体験を楽しく聞かせていただきました。
2. ボランティアについて意見交換できたのも有意義でした。

した。

3. ボランティア活動とは、四角四面に肩に力を入れ、大上段に構えて進めなくとも暇な好きなときに、自分の特技、経験などを気軽に自由に隣人に伝えるだけでも良い、と気付いたことは大きな収穫だった。今後も気楽にこの活動を続けたい。

N.I.A. 2002年度事業計画（事務局）

5月25日に開かれた総会において、2002年度の事業計画が決定しました。学校の完全週休2日制の導入に合せ、外国人子女に対する土曜日の日本語ボランティア活動や、月曜日のA.L.T.との交流会等新規事業も加わりました。会員一人一人が、各部会の活動に参加し、活発な事業の展開をお願いします。

2002年度主要事業

月	総務	姉妹都市交流部会	交流部会	情報部会
4	理事会 監査			編集会議（毎月1回） ホームページ作成（例月）
5	総会		サンバチーム結成	
6		青少年交流事業（受入）(6/14~6/24)	タスカルーサ青少年歓迎交流会 (6/15)	N.I.A.スクエア58号発行
7			市民まつり参加(7/28) サンバチーム	
8				
9				N.I.A.スクエア59号発行
10	理事会		交流バスツアー（日帰り）	
11			バーベキュー大会	
12		夕市、桜まつり、俳句、絵画の募集		N.I.A.スクエア60号発行
1	理事会		餅つき大会	
2				
3				N.I.A.スクエア61号発行

月	比較文化部会	語学研修部会	在住外国人交流部会	ボランティア部会	青少年部会
4	世界の料理教室 イタリア(4/6)	語学交流講座(I期)	日本語ボランティア事業 初級(月、水、木) 中級(月、水) 漢字教室(火) 小中学生(土)	ALTと語ろう(月) 通年	SSサロン (青少年と外国人の集い)
5	比較文化講演会	同上	同上 (サンバチーム参加)	青少年ホームステイ 受入説明会	SSサロン
6		同上	同上	タスカルーサ青少年 ホームステイ受入	交流キャンプ (6/22~23)
7	世界の料理教室		同上 七夕まつり		SSサロン
8			同上(休講あり)		花火大会
9		語学交流講座(II期) 日本語ボランティア養成講座開講	同上		日帰りハイク
10	日本文化セミナー	同上 同上	同上・講師研修会	研修会	運動会
11	世界の料理教室	同上 同上	同上		SSサロン
12		日本語ボランティア養成講座終了 日本語ボランティア実践説明会	同上		クリスマス・パーティ
1	日本文化セミナー	語学交流講座(III期)	同上・新年茶話会		SSサロン
2	世界の料理教室	同上	同上	研修会	SSサロン
3	ポットラックパーティ	同上	同上・スピーチ茶話会		SSサロン

N.I.A. Youth vol.41 Go! Go! ASAKUSAの活動報告について



3月9日(土)、大久保にホームステイ中の外国人(13名)と一緒に、浅草に日帰り旅行を行いました。当日は班別行動(合計参加者29名を8班に分けた)となりました。班別行動のため外国人と交流する機会が多く、行きの電車から積極的に外国人に話しかける参加者の姿が見受けられました。

浅草寺・仲見世では、着物、刀、かつら等のお土産がきれいに並べられており、途中試食した「雷おこし」、「だるま」等に外国人は興味を持っていました。

また、水上バスでは、勝鬨橋や清洲橋等の12の橋をくぐり、両国国技館、江戸東京博物館、清澄庭園を見ながら約40分の旅を楽しみました。水上バスの移動で到着した浜離宮は

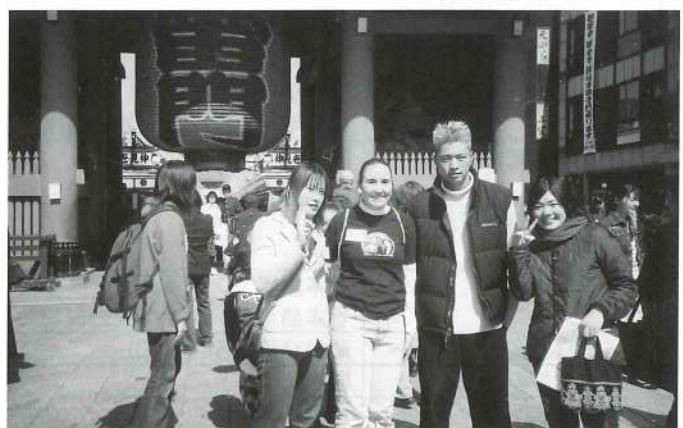
明治維新により皇室の離宮となりましたが、元々は徳川將軍の別邸として「浜御殿」と称された江戸時代の代表的な庭園でした。庭園内には宝永4年(1707年)に造られて以来、將軍をはじめ御台様、公家達が眺望を堪能した休憩所である「中島の御茶屋」(当時の建物は関東大震災で焼失)、六代將軍宣公が、庭園を大改修した時に植えたと伝えられる都内では最大級の黒松「三百年の松」などがあり、お花畠には一面に菜の花が咲いていました。当日は晴天で、気候も良く旅行日和となりました。

～参加者の感想から～

- 外国人とカラオケや洋服の話題で盛り上がり楽しかった。参加者の年齢が近いこともあり、共通の話ができる良かっただ。
- 今回の参加者は20歳ぐらいが多かったが、みんな自分の夢や目標を明確に持っていた。
- 日本の伝統文化について、日本語での説明は頭に浮かぶが、英語に訳して説明することが難しかった。特に英単語が浮かばなかった。
- 同じグループに「吉野家」好きの外国人がいた。いつもそのまま食べるということだったので、生卵をかけて食べることを勧めたら「おいしい！！」と言ってくれて良かった。
- 「韓国ではお年寄りに席を譲るのは当たり前なので、席を譲って誉められるのは不思議な感じがする。」と言われて、自分自身が少し恥ずかしくなった。また、浅草寺では、「水で清める」、「おみくじを結ぶ」、「お金を入れる」等はどうして行うのかと質問されて答えることができなかった。あらためて日本のことを勉強する必要があると感じた。
- 浜離宮に行った時、外国人に「庭園とはどういう意味か？」と質問された。英語で「garden」(庭、庭園)が思い浮かんだが、普段私は「庭園」と「庭」を使い分けている。それは「庭園」は「庭」よりも広く、整ったといった意味が含まれているように感じるからである。このような日本語特有の微妙な言葉の違いを外国人に説明するのに苦労した。
- 「高校や大学を卒業後、就職する」という人生設計を当然のように考えていたが、就職した後、必要なことを勉強し直すために学生に戻り、卒業後再就職したり、自分の能力や技能に合わせて転職をしたり等、参加した外国人の発想が自由だと感じた。

青少年部会ではこれからも外国人と楽しい交流を行っていきたいと考えています。みなさんの多数の参加をお待ちしています。行事情報についてはホームページ等をチェックして下さい。

(井吉仙征 編集部)



会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

じぶん じんせい もうひとつの自分の人生のために



いのうえ さだのり
井上 定則 (東習志野在住)

私は昭和17年生まれですので、今年は生まれた年の干支に戻り本卦還りの年ということになります。当協会へは、昨年3月に入会し、日本語ボランティアをしています。外国人の人々と地域社会とのかかわりについて少しでもお役に立てればと思っております。30年近いサラリーマン生活に区切りがついたのを機に、もうひとつの自分の人生のために、在職中に取得していた資格（社会保険労務士・行政書士）を活かしながら、"あなたの街の身近な相談相手"として、地域の方々の相談にのってあげられるよう心がけていきたいと思っております。人権擁護委員として、基本的人権の擁護と人権思想の普及高揚、お互いの尊重が尊重されるための啓発活動に一層努めています。また、この4月から社会福祉協議会の心配ごと相談員をやらせていただくことになりました。仕事と余暇、そして奉仕活動に少しでも携わることができるならば、今までお世話になってきた地域社会へのささやかな恩返しだと思っております。

日本での生活



オモレゲ・モウゼス (ナイジェリア出身)

私は数ヶ月前にナイジェリアから来たオモレゲ・モウゼスです。この地で私の兄、オモレゲ・キングスレーと彼の家族が幸せに暮らしているのできました。日本は、美しく安心して暮らせる国ですね。世界の人々が訪れてみたい国で母国とともに家や車や美しい花々がとてもきれいです。日本の食べ物の中でご飯はとても美味しく毎日いただいてます。サッカーは私の趣味ですので、今からワールドカップを楽しみにしています。日本の友達とサッカーしませんか。日本での問題の一つはコミュニケーションですがNIAのおかげで楽しい生活をおくっています。日本語の先生に感謝しています。(文：館川裕)

私の夢



エリアナ・ミヤグスク (ペルー出身)

南米ペルーの首都リマ出身の日系3世、エリアナ・ミヤグスクさんは、去年の4月、親しかった友人に別れを告げて早く来日してきた両親と妹の元へとやってきました。今年で2回目の春を迎え、日本での生活について話をしてくれた。「日本は、ペルーと比べて時間にとても正確だと思う。例えば、バスの時刻表。1分過ぎても乗れないし、次のバスが来るまで1時間待たなければならない。又、車を駐車する時は、駐車場にきちんと止める。このように物の配置が順序正しい。」
NIAの日本語講座を週1回受講し、この4月で1年になった。さらに、これから市川にある夜間中学で、日本語を学ぼうと意欲をみせている。彼女は、来日する以前、高校在学中に6ヶ月間、卒業後は2ヶ月間、地元の文化センターで日本語を学んだという。父親から、5年前、単身来日した時に、言葉の問題で、仕事探しに苦労した話をきかされた。そして、彼女は、今、朝9時から夕方5時まで食品会社で週5日間働いている。そんな彼女を支えているのは、日本語ボランティア講師の山本先生である。夜間中学を見学に一緒にいてくれた。彼女には、1つの夢がある。日本語をマスターして大学（観光学科）に進み、見聞を広めることだそうだ。NIAの活動に協力的な彼女を心から応援し、いつの日か夢が実現することを祈りたい。(文：沼澤佳子)

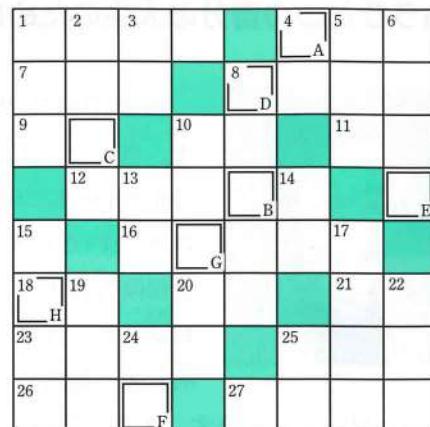
Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.58/プレゼント付！

〈Across〉

- Any round body or mass, esp. one used in various games.
- Opposite of "Lose".
- American Football Association.
- , lost, lost.
- Doctor
- Company
- Old English
- , shot, shot.
- Sounds that have rhythm, melody, etc..
- Public Relations.
- Royal Engineers.
- Automobile Association.
- Point of the horizon where the sun rises.
- Conspicuous Gallantry Medal.
- National Negro Congress.
- Sort of food to which a person is limited (e.g. for medical reasons).

〈Down〉

- , worse, worst.
- Armed Forces Radio Service.
- Louisiana
- War Office.
- Imperial Service Order.
- Want, require,
- Free. Not held together, fastened, packed, or contained in something.
- Space marked out for certain games.
- His (or Her) Majesty.
- Chemical symbol for Titanium.
- Not closed or enclosed, so that people and things can go in, out, or through.
- Box, place, closed in with wires or bars in which birds or animals are kept.
- Run, —, run.
- Amount.
- South Carolina.
- Crown of India.



〈出題者〉 御園生 韶 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A～Hの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで7月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

たくさんのご応募お待ちしています。

日本語ボランティア養成講座の開講

在住外国人に日本語を教えていただくボランティア講師養成講座の受講生を募集しています。受講者は、当協会への加入と、養成講座終了後は、ボランティア講師として活動できる方に限定いたします。

講座は、週2回(火、金曜日)を原則に全30回、60時間です。

期間 9月6日(金)から12月17日(火)まで

時間 午前9時30分から11時30分まで

会場 サンロード6階大会議室他

受講料 7,000円(他にテキスト代5,000円程度)

定員 25名(多数の場合は抽選)

講師 手綱久枝さん

申込み 官製はがきに「日本語ボランティア養成講座希望」と明記の上、住所、氏名(フリガナ)、生年月日、電話、FAX番号を記入し、事務局へ。締切りは、7月31日(木)必着。

その他 協会加入は、年会費2,000円です。

編集後記

* インドはIT革命に乗じて中産階級が増えたそうですね。古くて、暗いカースト制とサディー(妻の殉死)はどう変わって行くのでしょうか。気になるところですね。どなたか教えて。(Y.T.)

* ソルトレーラー・冬季オリンピック惨敗の鬱憤を、今度のサッカー・ワールド・カップで晴らせるか日本? Show the Japanese spirits!(K.M.)

* 新年度第1号の発行です。今年度も読者の皆様に喜んでいただけるような紙面作りを目指して頑張って行こうと思います。宜しくお願ひします。(N.I.)

* The World Cup event is very soon coming and we will be filled with excitement. Join the fun but always be on "ALERT".(J.S.)

* 最近のマイブームはことば。その国のことばをひとつ知っているだけで、自分の世界が広がり、世界に友達ができる。今回のことばは「ペゴッパヨ」。韓国語で「腹へつたあ~」。

* ドキドキの初仕事でしたが、編集長の心強いバックアップで乗り越えられました。インド、なんと不可思議な国でしょう。でも少し距離が縮まった気がいたしました。(A.K.)

* 人が動物と違うところは、1例として言葉を話すところだろう。そんな素晴らしい技を生かしたいものだ。“Jokeは人を明るくする。”(K.N.)

前回の解答

〈解答〉 SALT LAKE

S	I	P	T	A	K	E
N	O	R	M	A	N	A
O	N		E	C	I	R
W		A	D	A	P	T
	S	T	A	T	E	G
T	A		L	C	T	O
A	F	N	H	A	I	L
B	E	S	T	B	E	D

当選者

相沢 裕司さん 島村 一歩さん

篠塚 愛未さん 大塚 秋江さん

上野 真人さん 正解者は26名でした。

N.I.A.スクウェア・第58号

発行2002年6月1日/発行責任者・白鳥 純

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.seaple-n.icc.ne.jp/~nia>

<Eメール> nia@seaple-n.icc.ne.jp

メールアドレスとホームページアドレスが変更になりました。